

建築人

5

2018





建築人

5
2018

目次

2 大阪ホンマもん

4 インフォメーション・事業案内

6 動静レポート

7 Topics

8 坂茂講演会案内

10 Gallery 建築作品紹介

IN'n'OUT
設計 マニエラ建築設計事務所 施工 三幸建設

11 記憶の建築 松隈 洋

喫茶・城の眼 一九六二年
山本忠司の原点となる空間の力

12 建築の射程 横関正人・横関万貴子

伝統構法住宅に適した耐震補強方法とは？
「耐震補強モデル施設」富田林じないまち・木くま館」の事例から

14 理事会報告 建築相談室から 編集後記

建築表彰委員会の活動について

建築表彰委員会
委員長 沼田 亘



大阪府建築士会では、魅力あるまちづくりに貢献するため、建築表彰委員会を設け活動をしています。

一つに建築顕彰制度として、大阪都市景観建築賞（愛称大阪まちなみ賞）、大阪建築コンクールなどがあります。これらは歴史ある賞として定着しています。

建築物は、魅力あるまちなみを形成していく先導役として、大事な構成要素となります。まちなみは建築物の集合で形成されていきます。一つ一つの建築物は奇をてらうのではなく、端正でかつ隣・地域・都市・社会と調和していることが大切になります。これらの賞が、大阪府及び近畿二府四県の良好なまちなみ形成に果たした役割は大なるものがあります。今後は賞の意義をより積極的に社会に発信し、今まで以上に市民から評価され、建築士が目指したい価値ある賞として高めていくことが大切です。

もう一つに若手建築士候補育成のため、優秀卒業生表彰制度、「あすなる夢建築」大阪府公共建築設計コンクール、高校生の建築甲子園などを設けています。

これらの目的を実現していくため公正、公明な賞として進化、発展させていくことが大切な役割になります。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

半世紀ほど前に、大阪府の北に位置する吹田市で日本万国博覧会が開催された。跡地は公園として整備されており、その象徴と言わば「太陽の塔」を取り上げたい。

日本万国博覧会協会はテーマ展示を推進するため、昭和四二年（一九六七年）に、芸術家の岡本太郎氏をプロデューサーに任命した。博覧会のシンボルとなる太陽の塔は岡本氏自らデザインし、大林組・竹中工務店・藤田組によるJVで施工された。最高高さが七〇mまで達するこの有機的な造形の構造はRC造、SRC造で一部は鉄骨造+ショットコンクリートとされた。内部は空洞で、当時は地下展示と空中展示をつなぐ動線かつ、生命の進化の過程を示す展示空間でもあった。

そして昭和四五年（一九七〇年）三月一日から半年間開催された日本万国博覧会は、七ヶ国の参加のもと六四〇〇万人を超える入場者で大いに賑わった。その後、解体の危機もあったが保存運動により半世紀近くなった今でも市民に愛され、太陽の塔を含め万博公園は賑わっている。

現在、二〇二五年に開催予定の万博を、再び大阪にて誘致する動きが活発に行われており、カジノ誘致と併せ関西経済界では活性化の気運が高まっている。

塔の耐震工事の実施と内部の復元工事が完成し、一部が公開されて再び大人気となっている太陽の塔。今だからこを思い返して欲しいのは当時のテーマである「人類の進歩と調和」。是非、訪れて頂きたい。

テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

建築士会会員1,000円
学生以外・会員外1,500円

大阪府知事指定講習
平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
8/10・1/29 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法で、伝統構法の本造建築物の耐震診断等に用いられます。
日程 ①8月10日(金) ②1月29日(火)
時間 9:30～16:00
会場 大阪府建築健康会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

第3回国際茶楼
インド・ナウ 悠久のインド～チャンディガール・タージマハル報告会
6/15 CPD2単位(予定)

今年2月に実施した建築士会海外研修旅行の報告会を行います。ルンド・ラジャナム氏を迎えインド人の生活や考え方を聞きながら、インドの国全体像を浮かび上がらせたいと考えています。スライドショーではタージマハルとアグラ城そしてチャンディガール(政府庁舎群コルビエの作品他)の魅力を皆様にお伝えしたいと思います。※本場?のチャイとお菓子を用意しております。食べながらゆったりとインドを感じてください。
日時 6月15日(金) 18:00～20:00
受付8:30～
会場 大阪府建築士会
定員 40名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
学生・大阪府建築士会新入会員(2017年度以降入会) 無料

新入会員歓迎企画セミナー
まちと町屋～都市に住むことの意味とかたちの歴史を考える～
5/18 CPD2単位(予定)

町屋は都会的な場の住まいとして長い時間をかけて洗練・完成された建築様式です。同じように見える町屋も、都市ごとにそれぞれ異なる性格をもっています。今回は大阪と京都の町屋の歴史をたどることで、都市に住むことの意味とかたちを本会副会長で京都大学大学院の中嶋節子教授を講師に迎え、お話いただきます。
日時 5月18日(金) 18:30～20:30
会場 修成堀江ラボ(大阪市西区北堀江1-21-25)
定員 40名
参加費 学生・本会新入会員(2017年度以降入会) 無料

建築資材・耐震部材工場見学フクビ化学工業株式会社・福井散策(永平寺)
6/21、6/22 1日参加4単位、2日参加7単位

建築資材・樹脂製産業資材の製造メーカーであるフクビ化学工業株式の生産工場や、永平寺など福井県内の建築の見学を行います。初日のみ参加、現地集合などの各種コースもご用意します。
日時 6/21(木) 11:00～16:30
6/22(金) 10:00～16:15
会場 フクビ化学工業(株)、永平寺、養浩館
定員 40名(定員に達し次第締切)
参加費 Aコース(6/21～22の1泊2日) 30,000円
Bコース(6/21のみ日帰り) 20,000円
Cコース(現地集合) 8,000円

若い大工職人がかたる和風建築の話
6/23 CPD2単位(予定)

地域分科会建築士の会南河内では和風住宅建築についての講習会を開催します。建築士によって設計された家を作る大工さん。完成された時の雰囲気や目に見えない部分の品質は、大工の数だけバリエーションがあります。大工職人が何を思っているのか、実例をご紹介します。
日時 6月23日(土) 18:30～20:30
会場 松原ゆめニティプラザ3階研修室(近鉄河内松原駅前)
定員 30名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員1,000円
一般1,500円 学生500円

事務局からのお知らせ
2018年版会員名簿の掲載事項について

2018年の会員名簿につきましては、現在製作を行っており掲載事項は①氏名②勤務先名③勤務先住所・電話・Fax④建築士級別(正会員のみ)となっております。つきましては、下記のいずれかを希望される場合は、5月25日(金)までにFaxまたは郵便にて事務局までご連絡をお願いいたします(5月1日時点で既にご連絡をいただいている場合は不要です)。
A.氏名以外(②～④)を掲載しない。
B.連絡先が自宅のみのため、③に自宅の連絡先を掲載する。
C.氏名を含め一切掲載しない(ホームページの名簿からも削除)。

本会の催し参加問合・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

国土交通省官庁営繕部
発注情報メール配信サービス

国土交通省の本省や近畿地方整備局などの設計・工事・工事監理業務などの発注情報が、近畿整備局のホームページから登録手続きを行うことで自動的にメール配信されます。
詳細HP <https://www.kkr.mlit.go.jp/n-info/ad/eizen/index.html>

国交省発注の「プロポーザル方式の視覚的表現の取扱い見直し」について

国土交通省営繕部が発注する、プロポーザル方式に基づく建築関係建設コンサルタント等の選定・特定手続の技術提案は文章での表現を原則とし、図などの視覚的表現は必要最小限のみ認めています。提出者がCAD等のツールを使用して技術提案を作成することが一般化したため、視覚的表現の許容範囲や、評価における視覚的表現の扱いの見直しを行いました。詳細については本会ホームページをご覧ください。

大阪府総合設計許可取扱要領を改正

大阪府は、平成30年4月に総合設計許可取扱要領を改正しました。同要領では、耐震性が不足した建築物の建替えによる耐震性の向上等を図るために、要緊急安全確認大規模建築物及び広域緊急交通路の耐震診断義務化対象路線の沿道にある耐震診断義務化対象建築物の建替えを行う場合に概ね建築物の1層分の容積割増しを行うほか、マンション建替法における要除却認定マンションの建替えを行う場合に公開空地による割増率を現行の1.5倍にする等を改正しています。
詳細は以下ホームページをご覧ください。
HPアドレス http://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_shinsa/tyousei_kyoka/tyousei_59_2kyoka.html
問合 大阪府住宅まちづくり部建築指導室
審査指導課 確認・検査グループ
Tel.06-6210-9724

おおさか環境にやさしい建築賞受賞建築物現地見学会
5/17 CPD2単位

大阪府と大阪市では、環境配慮に優れた建築物の取組みに対して表彰する「おおさか環境にやさしい建築賞」を実施しています。平成29年度同賞を受賞した建築物の現地見学会を開催します。
日時 5月17日(木) 10:30～12:00
(雨天決行)

場所 メディカルりんくうポート
泉佐野市りんくう往来南3-41
内容 環境配慮についての説明と建築物見学
説明者 株式会社日建設計担当者
参加費 無料 定員 先着30名
申込締切 5月2日午後5時
詳細 http://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_shinsa/casbee_index_html/h30kengaku.html
問合 大阪府住宅まちづくり部建築指導室
審査指導課 建築環境・設備グループ
Tel.06-6210-9725

大規模マンション建設時に保育施設等整備の事前協議を義務付ける条例を平成30年4月1日から施行

大阪市では、大規模マンションの建設による保育需要の増加に対応した保育施設等の整備を図るため、大規模マンションの建設計画が固まる前の段階で、大阪市と建設事業者との間における保育施設等の整備に関する協議を義務付ける条例を制定し、平成30年4月1日から施行しました。

Others

その他のお知らせ

「JAS構造材利用拡大事業」説明会(大阪開催)
5/18

(一社)全国木材組合連合会では、本年度、JAS構造材の利用普及を図るために「JAS構造材利用拡大事業」を実施いたします。同事業の説明会を開催します。
日時 5月18日(金) 13:30～
会場 シティプラザ大阪2階勾の問
大阪市中央区本町橋2-31
申込 <https://www.jas-kozouzai.jp/meeting/>

建築材料・住宅設備総合展「KENTEN2018」特別講演 平沼孝啓氏講演会

「安心で豊かな生活環境の未来へ」をテーマに、建築材料や住宅設備の最新トレンドの発信や、問題解決方法を提案する「KENTEN2018」を開催します。同展示会において、平沼孝啓氏の特別講演会も実施します。

■建築材料・住宅設備総合展 KENTEN2018
会期 6月7日(木)～8日(金)
講演会日時 6月7日(木) 13:30～14:30
会場 インテックス大阪
大阪市住之江区南港北1-5-102
問合 建築材料・住宅設備総合展KENTEN事務局
Tel.06-6944-9916

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

平成30年度定時総会・式典・表彰式・懇親会

5/23

平成30年度定時総会を開催します。詳しくは、本号に同封のご案内、出欠票、議案書をご覧ください。
日時 5月23日(水) 14:00～19:30
会場 KKRホテル大阪3階
大阪市中央区馬場町2-24
記念講演 講師 坂 茂
テーマ 作品作りと社会貢献の両立を目指す

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。
不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。
スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞご利用ください。
(業務内容)
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価等
(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。
詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成30年一級建築士試験案内

- ◇受験申込の配布
期間 4月6日(金)～5月14日(月)
(土、日、祝日は除く。但し5/12(土)、5/13(日)は配布します。)
時間 9:30～17:00
場所 大阪府建築士会事務局
- ◇受験申込受付
期間 5月10日(木)～5月14日(月)
(土、日も受付ます。)
時間 10:00～17:00
場所 大阪府建築士会事務局
- ◇学科試験日 7月22日(日)
◇設計製図試験日 10月14日(日)

平成30年度監理技術者講習

(監理技術者以外の方も受講可能)
5/16、7/12、9/21 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひご受講下さい。
日程 5/16(水)、7/12(木)、9/21(金)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

空き家の活用に関する講習

5/19、6/2、6/30 CPD15単位

地域における緊急で重要な空き家対策の実施において、建築士の職能を活かした空き家の適正な管理や活用等を図るための建築士向けの講習を実施します。建築士としてすでに持っている知識以外に、空き家に対する基本的な知識、相談業務の進め方、空き家調査、管理手法、利活用の事例を学び、習得することが目的です。
日時 5月19日(土) 10:00～17:00
6月2日(土) 10:00～17:30
6月30日(土) 13:30～16:30
※三日間とも受講下さい
会場 5/19、6/2 大阪府建築士会
6/30 貝塚市旧吉村家
定員 40名(定員に達し次第締切)
受講対象 建築士会インスペクター養成講座(既存住宅状況調査技術者講習)の修了者
受講料 建築士会会員9,000円
一般12,000円

建築士法にもとづく建築技術講習会

木造住宅を学ぶ
5/30-6/6 CPD10単位

木造住宅は多くの建築士が関わるため、基本設計から工事監理までの総合的スキル、省エネや耐震のノウハウを習得することが重要となっています。本講習会は2日間の開催で、1日目は設計管理の具体的なポイント、2日目は「富田林じないまち木くま館」や「今井町の家」を手掛けられた横関正人氏の作品を題材に、意匠設計、構造設計、施工の立場からお話を伺います。
日時 5月30日(水) 13:00～17:50
6月6日(水) 13:00～17:50
会場 大阪府建築士会会議室
定員 40名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員10,000円

後援団体会員12,000円

一般15,000円

建築士法にもとづく建築技術講習会

これだけでわかる 建築基準法!
5/31 CPD5単位(予定)

毎年大好評を頂き、満席となっています「これだけでわかる建築基準法」を今年も開催致します。今回も3人の講師によるバワフルな布陣で解説して頂きます。学科試験に向けて準備を始めたい方、設計実務に役立つ法令知識をもう一度学び直したい方を対象に、建築基準法・同法施行令から関連法規までを学ぶ講習会となります。
日時 5月31日(木) 13:30～18:30
会場 大阪府建築健保会館
内容 概要・総則、一般構造・建築設備規定、防火・避難規定、構造強度規定、都市計画関係規定、建築士法・関連法規
定員 110名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員4,500円
後援団体会員5,000円
一般5,500円

平成30年度建築士定期講習

6/7、7/27、8/27、9/18 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成27年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。
日程・会場
6/7(木)受付終了 大阪国際会議場
定員300名 会場コード5C-01
7/27(金)受付終了 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-51
8/27(月) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-02
9/18(火) 大阪国際交流センター
定員200名 会場コード5C-52
時間 9:25～17:00
申込書必着日 6/7(木)講習:4/26(木)
7/27(金)講習:6/26(火)
8/27(月)講習:7/23(月)
9/18(火)講習:8/17(金)
※各回定員に達し次第、受付を終了します。
6/7(木)、7/27(金)は定員に達しています。
受講料 12,960円(消費税含)
申込書配布・受付場所 大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局
建築技術教育普及センターHPにてWEB申込みも可能です。
<https://jaeictkosyu.jp/jaeicteikikosyu/>

既存住宅状況調査技術者講習

新規講習6/13、8/21、10/11 CPD5単位
移行講習6/18 CPD3単位

平成28年6月に宅地建物取引業法が一部改正され、平成30年4月から既存住宅の売買時に既存住宅状況調査が義務付けられました。調査の実施は、登録機関の講習を修了した建築士の方に認められ、新たな建築士業務となります。なお、従来のインスペクター登録者は同調査を実施できませんが、その方々を対象に規定の講義の一部を免除した移行講習も開催します。
＜新規講習＞
日時 6/13(水)、8/21(火)、10/11(木)
10:00～17:50
会場 大阪府建築健保会館
定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,060円
郵送申込21,600円
＜移行講習＞
日時 6/18(月) 13:00～17:50
会場 大阪府建築士会
定員 40名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込16,740円
郵送申込17,280円
＜申込方法＞
日本建築士会連合会HPよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/>

建築士法にもとづく建築技術講習会

集合住宅の騒音防止設計入門
6/20 CPD4単位(予定)

集合住宅では良好な音環境を実現するため、屋内外から居室へ伝搬する騒音を出来るだけ少なくなるように遮音設計がなされますが、騒音が全く聞こえない状態は保障できません。こうした集合住宅の騒音問題に対して、設計者や施工者に対応策の実例や計算方法などを易しく示し、防止設計方法を解説します。
日時 6月20日(水) 13:00～17:00
会場 TOTOテクニカルセンター大阪
定員 80名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員6,500円
後援団体会員7,500円
一般8,500円

大阪府知事指定講習

平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》
6/28-9/4・12/5 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習会は、国土交通大臣登録講習ではありません。)
日程 ①6月28日(木) ②9月4日(火)
③12月5日(水)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円

会長動静

- 3/26 中央建築士審査会
- 3/27 大阪府収用委員会
- 3/28 大阪府「あすなろ夢建築」表彰式
- 3/28 建設専門新聞記者会見
- 4/24 全日本不動産協会咲洲事務所式典
- 4/11 大阪府収用委員会
- 4/12 日本建築士会連合会女性委員会
- 4/13 運営委員会
- 4/16 大阪弁護士会正副会長来会
- 4/18 正副会長会議、理事会
- 4/19 大阪弁護士会役員就任披露
- 4/19 大阪府収用委員会
- 4/24 プレハブ建築協会総会
- 4/25 日本建築積算協会総会

運営委員会

大阪弁護士会の会長・副会長の来会

大阪弁護士会新役員の竹岡富美男会長、小林正啓・濱田雄久・藤川義人・東重彦・横山耕平・大橋さゆりの各副会長が30年度役員就任挨拶のために4月16日に来会され、本会の岡本会長並びに副会長がお迎えしました。

両会共通の課題として、災害時の被災者支援、建築紛争解決、空家対策などの社会的懸案事項が山積しており、昨年締結した両会の「相互協力に関する覚書」に則り、相互の専門性を活かした協力関係を強化することが社会貢献に繋がるとして、両会の継続的な研究会の発足を図ることとしました。



来会された大阪弁護士会新役員の皆さん

運営委員会

建設専門新聞社記者会見

建設専門新聞社7社を3月28日に本会に招き記者会見を行いました。

会見では、①29年度の府内市町村首長訪問の成果、②行政及び各種団体等との

協定締結、③既存住宅状況調査（インスペクション）及び瑕疵保険業務の開始、④登録有形文化財等の歴史的建築物を紹介する「大阪文化財ナビ」の製作、⑤日本建築士会連合会主催の日韓中建築士協議会を10月17～20日に大阪で開催すること等、本会の主な活動の情報提供を行いました。



建設専門新聞社の記者の皆さん

運営委員会

平成30年の二級・木造建築士試験の申込状況

平成30年の二級・木造建築士試験申込受付を4月23日（月）に終了しました。大阪在住の申込者数は、二級建築士学科が1,886名（昨年1,848名）、製図が383名（昨年388名）、木造建築士は学科が94名（昨年98名）、製図が4名（昨年10名）と、ほぼ昨年並みでした。なお、一級建築士試験の申込は、5月10日（木）～5月14日（月）に本会で受付を行います。

運営委員会

近畿地方整備局営繕部との意見交換

国土交通省近畿地方整備局営繕部の守作整備課長他2名の担当官が4月2日に来会され、「設計業務等発注時のプロポーザル手続きにおける評価の考え方」について意見交換を行い、本会は濱田副会長、徳岡理事、沼田理事が対応しました。整備局では、公募型方式等により設計及び工事監理業務の委託先を決める際に、①優秀な提案をしたものが採用される、②小規模な事務所が不利にならないなどに配慮するため、技術提案書の評価項目、判断基準、評価ウエイト等の基準について見直しを行っており、業務実績の弾力的運用、受賞経歴の評価、CPD取得単位数の低減など、評価の着目点等について

意見交換を行いました。

CPD評価では、加点を取得できる登録技術者が少ない状況があり、CPD制度普及の課題も明らかになりました。

また、国交省の発注情報をメールで配信するシステムや「プロポーザル手続での技術提案における視覚的表現の取扱い」の情報をいただき、本会ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

社会貢献委員会

WEBサイト「大阪文化財ナビ」を立上げ

本会ヘリテージ部会では、文化庁から文化芸術振興費事業の補助を受け、大阪府内に約200ヶ所ある登録有形文化財等の歴史的建築物を紹介する専用のWEBサイト「大阪文化財ナビ」を3月末に設置しました。サイトには本会ホームページからもアクセスでき、登録有形文化財等の写真・解説・所在地データなどを掲載し、地域別検索やイベントニュースの発信、防災対策、閲覧者からの意見聴取機能も備えています。

本年度以降も国宝、重要文化財、指定文化財の掲載や、インバウンドなどの外国人向けに解説の多言語化を行うなど、今後さらに内容を充実させる計画です。

表彰委員会

第62回大阪建築コンクール入賞者決まる

平成29年度の第62回大阪建築コンクールの最終審査を3月20日に行いました。審査の結果は以下のとおりで、大阪府知事賞2点、渡辺節賞は該当者なしとなり、渡辺節賞奨励賞1点が選ばれました。なお、表彰式は5月23日の本会定時総会にて行います。

【知事賞】：①江副敏史、多喜 茂、萩森薫、宮本順平／(株)日建設計／豊中市立文化芸術センター、②松田知也、宮島照久、西村 敬、鈴木雅史／(株)竹中工務店／てんしば

【渡辺節賞】：該当者なし
渡辺節賞奨励賞：柳樂和哉／(株)NTTファシリティーズ／西陣産業創造會館（旧京都中央電話局西陣分局舎）

富田林市寺内町の住宅等見学会～横関正人+万貴子氏の作品を巡る～に参加して

日程：平成 30 年 3 月 17 日（土） 場所：富田林市本町・富田林市界限 参加者：32 名



濱田大洋（まちづくり分科会 副主査）

府内唯一の重要伝統的建造物保存地区として江戸時代以降の町家やまち並みが保存されている富田林寺内町で設計・まちづくり活動をされている横関正人+万貴子氏の一連の作品見学会に参加しました。ここ寺内町で1軒の住宅「寺内町の家」の設計を機に横関氏と万貴子氏はここに居を移され、自宅と設計事務所「NEO GEO 鴛鴦庵（えんおうあん）」を構え、厳しい法的制約の下で歴史的町家の再生や新築など、歴史的まち並みと調和した豊かな住まいを実現するクリエイティブな作品を数多く手掛けられていて、これらはプロトタイプとして当地区のまちづくりに影響を与えています。今回は、横関氏の案内で、およそ 20 年余りに亘る一連の作品を巡りました。参加者は会員 25 名、会員外 7 名（うち中学生 1 名）と大盛況でした。富田林市

は寺内町を核にした観光化を進め、富田林駅南側に近接して「観光交流施設きらめきファクトリー」ができています。参加者はここに集合しました。そのすぐ横に本町通りの入り口であるゲートが建っています。これも横関氏の設計で、スチールの楕円形の屋根が浮いているような未来をイメージさせるデザインになっています。歴史ある古い街と、現代、未来を結ぶゲートという訳です。寺内町を歩きながら、町割りの構成や、歴史とともに町家の形も変化していること、そこにその時代の斬新なデザインが見られること、自分も同様に、新しい技術やデザインを果敢に取り込んで封入していると説明がありました。私は、約 20 年前に「陶芸工房飛鳥」を訪れましたが、このオーナーは、今や寺内町のまちづくり会長をされており、やはり「ま

ち」は「ひと」がつくるんだと実感しました。訪れるたびに、まちなかにしゃれたブティックやカフェが増えており、横関氏の設計思想とここに住み働く人々の思いが重なって、このような賑わいが生まれているのではないのでしょうか。



陶芸工房飛鳥



横関氏の事務所「NEO GEO 鴛鴦庵」前

震災の教訓を伝える「津波避難タワー」見学講習会と工場見学

日程：平成 30 年 3 月 20 日（火） 会場：日鐵住金建材(株)大阪製造所 参加者：15 名



小谷美樹（理事）

東日本震災から 7 年。その記憶を風化させずしっかりと活かし、伝えている事例があると聞き、見学会を企画した。日鐵住金建材(株)の「津波避難タワー（セーフガードタワー）」の見学だ。見学会は、製品の生産工場から開始した。薄板のロールフォーミング技術によるダイナミックな生産工程、形鋼、ガードレールなど多くの成型ライン、塗装ラインや板幅に合わせてロールを自動交換できるラインを見学できた。これにより部材が正確に成形される優れた技術を目の当たりにした。続いて、日鐵住金建材(株)敷地内に設置されている従業員用の避難津波タワーの見学だ。建築構造用冷間ロール成形形鋼管と H 鋼の鉄骨造だ。アプローチはスロープと階段の 2 本がついており、車椅子でも避難可能としている。自家発電設備を設置。高石では、津波対策で津波到達時間は 102 分として対策を考えている

との事でした。そして、いよいよ見学会のハイライトは、東日本大震災当時、同社仙台工場で被災し、当時の工場責任者であった執行役員生産技術センター 生産技術部長の平山憲司氏の津波避難体験談である。ここでその一部を紹介する。仙台では 8m の津波が到来し、76 名が避難。引き継いだ避難マニュアルと日頃の訓練のおかげで全員無事で避難できたとの事であった。同社には避難マニュアルの歴史がある。H15 年宮城沖地震を教訓にし、更に更新してきた。地元消防署と連携し、①絶対に車で逃げない、②場所を離れない〈大きな地震揺れを感じたら〉、を实践した。工場ルールも①工場ライン止めてもいい事、②避難場所を 1 次は避難場所建物の外、2 次はグランド、3 次は築山と決めていた。訓練する事で避難時間は半分になる。昼間だけでなく、

夜の避難訓練も行っていた。全員築山に避難し助かった。ポイントは①繰り返し、すると身体で覚える、②光を確保。夜勤者はヘッドライト、ドアに懐中電灯をかける。③ 3S 整理整頓清掃、④生きたマニュアルをメンテナンス、⑤訓練をおろそかにしない。また、重要なのが、人員確認表の管理、実際逃げる時、全員いるかどうかの把握が難しい為、出勤票をパソコンでなく紙で管理し持ち出せる様にしていたとの事。この様に貴重な経験談を話していただいた。そして教訓から生まれた、「津波避難タワー」。建築士として活用していく使命を感じた。



津波避難タワー

A portrait of Shigeo Sakai, a middle-aged man with dark hair and a slight beard, wearing a black button-down shirt. He is sitting at a desk with his hands clasped, wearing a black digital watch. Behind him is a large green landscape painting with white and brown lines.

坂 茂 定時総会記念講演

作品作りと社会貢献の両立を目指して

2018年5月23日(水) 16:45～17:45

会 場 KKR ホテル大阪
入場無料 大阪府建築士会会員限定
主 催 公益社団法人大阪府建築士会

坂 茂(ばん しげる)

坂氏は、建築や災害支援活動で海外でも広く知られますが、ポンピドー・センター・メッセをはじめとする美術館、駅舎、学校施設など多くの作品を世界中で手がけられ、現在最も活躍している建築家のお一人です。

略歴

- 1957 東京生まれ
- 1984 クーパー・ユニオン建築学部(ニューヨーク)卒業
- 1982-83 磯崎新アトリエに勤務
- 1985 坂茂建築設計を設立
- 1995 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) コンサルタント、同時に災害支援活動団体 ボランティア・アーキテクト・ネットワーク (VAN) 設立
- 2001-2008 慶応義塾大学環境情報学部教授
- 2010 ハーバード大学GSD客員教授
コーネル大学客員教授
- 2011 京都造形芸術大学教授
- 2015 慶応義塾大学環境情報学部特別招聘教授

主な受賞歴

- 2004 フランス建築アカデミー ゴールドメダル
- 2005 アーノルド・W・ブルーナー記念賞建築部門世界建築賞
- 2009 日本建築学会賞作品部門
- 2009 ミュンヘン工科大学 名誉博士号
- 2010 フランス国家功労勲章オフィシエ
- 2011 オーギュスト・ペレ賞
- 2012 芸術選奨文化科学大臣賞
- 2014 フランス芸術文化勲章コマンドゥール
- 2014 プリツカー建築賞
- 2015 JIA日本建築大賞
- 2017 紫綬褒章
- 2017 マザー・テレサ社会正義賞

会場 KKRホテル大阪

- 地下鉄谷町4丁目駅より
東へ徒歩約10分
- JR・地下鉄森ノ宮駅より
西へ徒歩約10分



KKRホテル大阪

申込方法

会報誌「建築人5月号」に同封の定時総会出欠票に記載し、メール又はFAXで回答してください。

お問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103
Mail:info@aba-osakafu.or.jp

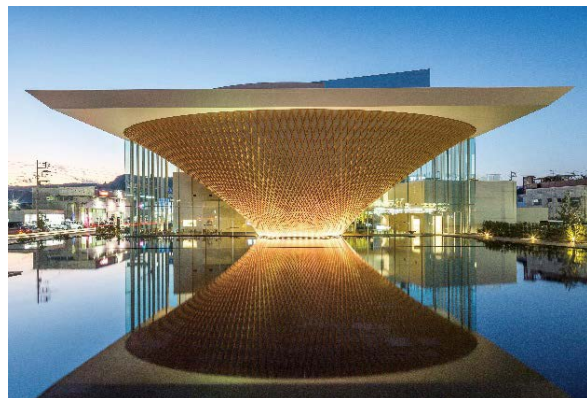
主な作品



ポンピドー・センター・メッセ 2010フランス
(C) Didier Boy de la Tour



紙のカテドラル 2013ニュージーランド
(C) Stephen Goodenough



静岡県富士山世界遺産センター 2017富士宮市
(C) 平井広行



紙の教会 1995神戸市
(C) 平井広行



コルテン銅と木製格子がグレーの外壁によって際立っている。木製の扉を開けると傍らに水盤が配されており、見上げるとまた空が広がる。家の中へ立ち入ったのだがここは外気を感じる外部空間である。室内はシャワーのみの設置とし、浴槽は外部に露天風呂として造作をした。LDK から一度外へ出て、高さを抑えた木製の建具をもう一度開けると、そこには離れのような和室がある。障子を少しあけるとここからもまた、中庭の緑と空が眺められる。中と外をより曖昧にしたこの家は、家の中に居ながらにして外をより身近にそして曖昧に感じることができる。育ち盛りの子どもたちにとってはアスレチックさながらの楽しい家であろう。

所在地：兵庫県西宮市
用途：専用住宅
竣工：2017.02
構造規模：木造2階建
敷地面積：145.09㎡
建築面積：82.71㎡
延床面積：131.29㎡
写真：松村芳治

香川県高松市の街角に建つこの小さな喫茶店を初めて訪れたのは、二〇一二年十月のことである。その時の印象は忘れがたい。外観は幾何学模様が刻まれたライトグレーのプレキャスト・コンクリート製の外装で、その寡黙な表情と丸鋼で作られた店名のロゴマークが今見ても新鮮だ。中に入ると、正面の壁を覆う石彫りの彫刻的なレリーフと荒々しい松材の丸鋸曳き立て材の側壁との対比が美しい。瓦材でデザインされた壁面の照明ブラケットや素朴な木製の家具、巨大な石のスピーカーに至るまで、天然の素材と手仕事だけでまとめあげられている。そこには静かな時間が流れ、全体を包み込む空間の凛とした力強さに満ちていた。設計を手がけたのは、香川県土木部建築課で営繕技師を務めていた山本忠司（一九二三～一九八八）である。おりしも、山本は、丹下健三の代表作となる香川県庁舎（一九五八年）の建設に県の担当者として携わり、大きな影響を受けた直後だった。しかし、この城の眼では、むしろ丹下には見えていなかった独自の世界が切り拓かれているようにも思える。私事ながら山本忠司の建築との出会いには幸せなきっかけがあった。

二〇一三年の夏に香川県ミュージアムで開催された生誕一〇〇周年丹下健三展に、縁あって実行委員として末席に加わった。その際、丹下展に山本忠司の仕事を加えたのでは是非見てほしい、と企画を進めていた県立ミュージアム学芸員の佐藤竜馬さんに案内されたのである。この時、城の眼の他に、代表作の瀬戸内海歴史民俗資料館（一九七三年）、香川県立武道館（一九六六年）、農業試験場展示館（一九六九年）、そして山本の出発点となる屋島陸上競技場（一九五三年）を駆け足で巡った。いずれの建物も

強い存在感をもっていきづいていた。しかし、建物を前に後者の二件は近く取り壊される予定だと教えられ、愕然とする。そこで、何の当てもなく、即座に大学の同僚の写真家・市川靖史さんに撮影を依頼した。山本の仕事を記録に残しつつ、より深く知りたいと思ったからだ。そして、二〇一五年の夏、山本の部下として瀬戸内海歴史民俗資料館の設計に携わった鈴木清一さんと県関係者の協力を得て、大学院生四名とご遺族を訪ね、大切に保管されていた資料を

竣工当時、城の眼は建築雑誌には発表されず、二〇年後に初めて紹介された。その時、山本は次のような文章を寄せていた。「高松市で喫茶店といっても、まだ模索の時代であった。音楽家の秋山邦晴、録音の奥山重之助、石彫の空充秋等の各氏が集まって、何か面白いものをつくらうということになった。（中略）改装の前は、木造の古い家屋であったが、床には煉瓦を貼り、壁面は、島根の大根島石貼、他の面に松材

記憶の建築

松隈 洋

喫茶・城の眼 1962年
山本忠司の原点となる空間の力



建物正面外観



店内の様子

調査させていただく。その成果は修士論文（総合麻紘「地域建築家山本忠司の輪郭をたどる」）にまとめられ、二〇一七年には建築雑誌『住宅建築』四月号で特集された。これを起点に香川県とご遺族の全面的な協力を得て、今年二〇一八年三月、没後初となる展覧会、「山本忠司展―風土に根ざし、地域を育む建築を求めて」（京都工芸繊維大学美術工芸資料館）を開催することができた。こうして、山本の仕事の全体像がようやく見えてきた、というところだろうか。

の丸鋸曳立て材をそのままに、天井は、掻き落して座ついても雲の流れを感じることができるトップライトのための曲面の構成、となっている。外部はプレキャストコンクリート。それらは、石、木、紙、煉瓦等の素材で、一切新建材は使っていない。（山本忠司「ほんものの味…喫茶「城の眼」」『店舗と建築』一九八二年一月号）

ここにあるように、城の眼は、気心の知れた仲間たちで自分たちの隠れ家的な場所として、木造家屋を改修して作られたのだ。また、だからこそ、力むことなく自由な雰囲気、自然と生み出されたのだろう。作る過程の楽しい風景が目につく。だが驚いたことに、香川県庁舎の石工事を担当した地元の岡田石材と彫刻家の流政之が共同して制作した城の眼の石彫りのレリーフは、実は、前川國男が、一九六四年にニューヨーク市の市制三〇〇年を記念して開催されたニューヨーク世界博覧会の日本館の外壁の原寸大の試作として造られたものだという。この小さな喫茶店の内壁が、遠くニューヨークに実現する日本館へとつながっていたのか、と想像するだけでも楽しい。実際に、日本館の現場は、岡田石材が施工にあたり、流政之が組織した庵治石匠塾の職人たちが七人が派遣されて立派に完成させたのだという（『国際建築』一九六五年二月号）。博覧会のパヴィリオンなので、日本館が現存しないことを考えると、その原型を今に伝える城の眼は、歴史を記憶する空間でもあることが見えてくる。山本は、同じ文章に次のように記している。

「この喫茶店は、できれば長くそのまま残したいものだと思う。まちを構成する環境文化が、次第にきらきらと尖鋭化し、いわゆるモダニズムの流れの中にあつて、このような、素朴なものは、存続させていくべきもの、と考える。」

開店から五六年、馬場泰子さんと順子さん姉妹が守り続けてきた山本の原点となる城の眼は、今も静かな時を重ねている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

富田林寺内町は大阪で唯一の重要伝統的建造物群保存地区です。その伝建地区の町家を改修した「富田林じゃないまち・木くま館」は木を扱う作家のショップやまちづくりの情報発信、交流の場として再生されています。今回は「木くま館」の耐震改修について設計者である横関正人・横関万貴子さんに紹介していただきました。

伝統構法住宅に適した耐震補強方法とは？ ～耐震補強モデル施設「富田林じないまち・木くま館」の事例から～

横関 正人・横関 万貴子

(横関正人) 1984 年 福井工業大学建設工学科卒業／1984 年 コンコード建築設計事務所／1991 年 横関正人建築研究所設立／1994 年 NEO GEO 設立・代表

(横関万貴子) 1994 年 大阪芸術大学芸術学部建築学科卒業 / 2001 年 三木万貴子建築設計室設立 / 2001 年～ NEO GEO / 2012 年 京都大学農学研究科森林科学卒業 / 2017 年 同博士課程後期単位取得認定退学

伝統構法建築物は風圧力等に抵抗するために瓦・土葺きなどの非常に重い屋根が用いられている。これを軽減することは耐震性能向上において有効であるが、外観・予算の面で望ましくないこともある。建物や「押さえ込み」によって成り立たせるのは、古代社寺に見られる一つの伝統構法の耐力特性の考え方であった。同時に伝統構法は柱梁の曲げによるラーメン効果による抵抗機構を持つが、過度に期待すると柱の折損を誘発し、倒壊につながる危険性がある。今回の補強法は伝統構法の元の骨組架構を簡易に補強したスケルトンによって、梁勝ちの壁柱ラーメン架構を形成したものである。壁柱には相欠き面格子を用いたが、これは多数節点における木材のめり込み抵抗によって、非常に粘り強く変形しかつ終局耐力を担保可能な、材料の特性を活かした伝統構法の知恵である。また、伝統構法建物は柱を石場立てとし、大地震時に滑りを生じること在地震力を逃す働きがあるとも言われている。長い経過時間を経た地盤が安定であることを前提に、床下・欄間の補強木基礎による石場立て構法は、終局時の滑りを阻害せず、基礎補強のコスト低減につながるものとなった。

これらの機能を組み合わせることによって、伝統構法本来の耐力発現機構を模した構法として、「面材と格子壁を組み合わせた耐震フレーム」(以下「MKF構法と呼ぶ」)は開発された。^{*1}

本事業は大阪府補助事業^{※2}の支援を受け、大阪府産材である「おおさか河内材」の利用促進、新規需要拡大を図り、林業地域活性化につなげる事を目的とし、富田林まちづくり協議会^{※3}を設立して行われた。

今年度で施設運用開始から七年の満期を迎え今後の在り方が問い直される節目となつ

ている。該当施設は、大阪府下の重要伝統的建造物群保存地区「富田林寺内町」^{*4}内に立地するN邸^{*5}を対象とし整備された。^{*6}

新たな耐震補強法の開発の意義

①耐震性が十分でない既存木造住宅（在来軸組、伝統構法）の安全性を確保し、建物の寿命を延ばす。②地域材を活かした、匠性に優れ強さを兼ね備えた耐震補強法を開発することである。

新たな耐震補強法の開発の意義

①耐震性が十分でない既存木造住宅(在来軸組、伝統構法)の安全性を確保し、建物寿命を延ばす。②地域材を活かした、意匠性に優れ強さを兼ね備えた耐震補強法を開発することである。

MKF構法の特徴、利点

(MK) 面材補強格子壁と (F) 床下及び欄間等を利用した面材箱型小壁を一体化した全体構面補強構法である。(図1参照) 伝統構法等の木造建築の課題である、壁量の少なさ、基礎の脆弱さを解消する。

平たくは、高耐力の壁を挿入すると柱脚に強い引拔力が発生し、強固な基礎が必要となり大幅な改修が不可欠であり費用が嵩む。一方、壁の多用は間取りを壊す。MK F構法はこの難問を解決する二つの方法である。少数の壁で耐力性能を満たすため高性能の壁をフレームに組み込むが、建物の自重と梁の曲げ戻し力で柱脚の浮き上がりを抑え込む。また、既存構造の特性を活かして柔らかい木造を柔かく補強する。

構成する部分について

「(MK)面材補強格子壁」

相欠き面格子壁の片面に、釘打ち面材を施工したものである(図①)。特徴は、①大きな終局耐力・粘りを持った格子壁と初期剛性(建物の堅さ)を担保する面材壁の組み合わせにより、高い耐震性を持つている。デザイン性の高さも特徴である。

「(F)床下及び欄間等を利用した面材箱型小壁」

フレーム実大実験での検証

耐力フレームは、耐力壁柱脚の浮き上がり力によって上に取り付けた連続梁の曲げ戻し効果によって伝達し、離れた柱位置で上階の固定荷重によって効果的に押さえる込むことで、耐力壁に十分な耐力を負担させる原理である。ここでは梁を充て梁とすることで強度性能を高め、耐力壁には剛性の意図に配慮した面格子を用いた。面格子は耐力・粘り性能に優れるが剛性がやや小さいため、面材で補うことでこれを補強した。なお耐力の壁倍率は3倍程度であった。

(北守顕久／京都大学生存圏研究所)

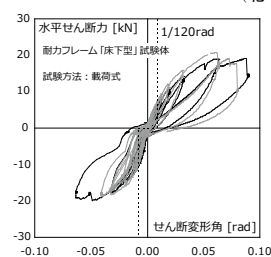


图 2



壁外側の柱脚浮き上がりが見られるが、梁の曲げ戻し効果と鉛直力により全体構面の剛体回転は保持される。

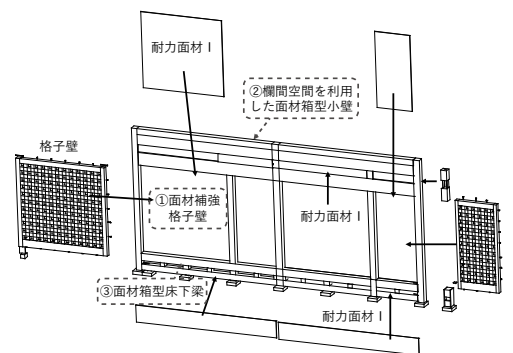


图 1

既存の床下：欄間部分の両側面に面材を釘打ちし、合成梁構造としたものである図1(②③)。

①石場建て等床下空間や欄間空間を持つ在来軸組・伝統構法の木造建築を対象とし、②壁の上部／下部にとりつく基礎梁として働き、耐力壁の引き抜き荷重を鉛直力により押さえ込むために有効に働く。

③これまでに利用されていなかった部位を、耐力要素に組み入れたもので、簡易な手法により、単体で、改修・新築どちらにも導



図5 改修後 撮影／絹巻 豊

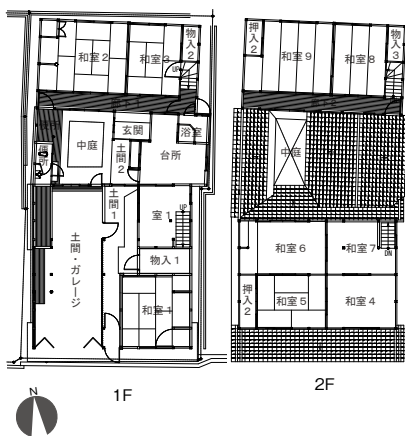


図3 改修前平面図

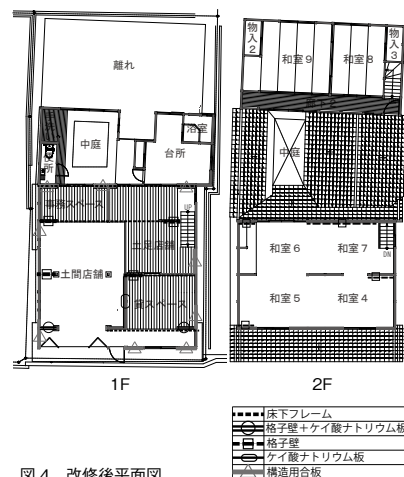


図4 改修後平面図



図6 改修後写真 撮影／絹巻 豊

入が可能である。

「(MK)と(F)の一体化による耐震補強(全体的構面補強)」

① 在来軸組・伝統構法の木造建築が主な対象である。② 床下の耐力壁と床上下の箱型耐力フレームを一体化した門型架構により、建物全体の耐震性の向上を図る。③ 空間を細かく仕切らず補強できるので、建物利用に対する制約は少なく、従来の耐震補強法と比べて、木材そのものの良さを生かしたデザイン性が優れたものと言える。

開発に伴い行ったフレーム実大実験について*

実験結果と簡単な考察は図2に示す。概ね狙い通りの結果を得た。

MKF構法を導入したモデル施設整備

当該施設に耐震補強*1、内装改修、設備改修を実施した*6。改修前後の平面図と写真を図3・図8に示す。



図7 改修前写真 撮影／NEO GEO

改修工事*7は、外壁と屋根と骨組みを残して解体が始まった。既存木構造体は、かなり傷んでおり、切断された梁や雨漏りで腐朽した梁もあったが、MKF構法で開放的な空間でありながら、耐震性能を高めることが出来た。床下BOX梁の施工性をもう少し向上する必要があるが、欄間で耐力を代用できることが解った。

施設開館後、共同事業者、店舗等が募集され七年間運営が行われた。*図8参照

木造建築の保存・活用や、地域材を使った建物づくりを目指し、新たな耐震補強方法を住民や来訪者等が見て学び、耐震化に対する関心・意識向上を図る場となった。

加えて地域材の利用促進に向け、林業に関わる人や事業者、木を扱う作家、アーティスト、周辺のまちづくり団体、住民等、木を取り巻く人たちの情報発信の場、交流拠点となつている。

ところで、重伝建地区への修景の補助金対象は市町村により範囲が異なる。富田林の場合は、外観のみが対象であった為、内部



図8 工事中写真 右下活用写真 撮影／NEO GEO

の適切な構造補強は当時行われていなかった。因みに他地域では、内部の構造体も対象範囲である場合が多く、そう改善されることを提案したい。

注釈

*1 京都大学生存圏研究所生活圏構造機能分野 小松研究室の協力のもと実施。

*2 平成三年度、大阪府森林整備加速化林業再生事業・地域材利用開発として行う。

*3 (株)計画研究所、大阪府森林組合、京都大学生存圏研究所、級建築士事務所(NEO GEO) (ネオジオ・L.P.まち) 富田林市から構成される。

*4 伝統構法の建物が約二七〇戸存在し、伝建地区内で年間一〇件前後、伝統構法等による新築、修理が実施されている。

*5 店舗併用住宅であり、構造形式及び規模は、主屋木造二階、瓦葺、延べ床面積二七・三㎡、主屋の他、奥に木造一階建てが一棟、主屋と奥の建物との間に平屋の台所、浴室、便所があり中庭を囲むように配置されていた。伝統的建造物に指定。平成二五年に主屋は外観改修工事(瓦葺き替え、外壁補修)を実施済みであった。「対象施設の概要」オジオが実施

*6 設計監理は級建築士事務所(NEO GEO) (ネオジオ) が実施

*7 (株)アールワンが実施

*8 当地区で空き家活用を進めるまちづくり団体 L.P.まち)と協働による体制を構築し運営。

理事会報告

文責 本会事務局

日時 四月十八日（水）十六時～十八時

場所 本会会議室

出席 理事三四名 監事一名

名誉会長他七名 役員候補者七名

（１）二九年度の収支決算は、当初予算に對して約八〇〇万円の黒字となりました。

これにより当期の正味財産期末残高は四三、二九一、九二二円と報告して承認されました。二九年度の黒字は、会員数の減少が当初想定の一〇〇名から三二名に縮小したことや登録閲覧事務及び建築士試験事業、委員会事業が堅調に推移し、特に既存住宅状況調査技術者講習の増収が大きな要因です。公益目的事業比率は八七・四％で、公益法人の条件である五〇％を大きく上回りました。

（２）監事から公益目的事業を活発に推進した結果、黒字財政の状態を保って、社会貢献事業も活性化しており、公益法人としての条件もクリアして、バランスのよい運営であり、三〇年度以降もこのような維持ができるよう務められたいとの監査状況が述べられました。

（３）社会貢献委員会建築相談分科会は、相談活動のトラブル回避、相談記録作成の徹底、第三者による相談内容の検証など、公益法人として適切な相談活動を行うために必要な事項を明記した運営規程案及び細則並びに相談マニュアル案を諮り、承認されました。

（４）インスペクション活動及び瑕疵保険検査機関連録のための本会の建築士事務所登録では、団体として土法第二三条で定める上記以外の業務を行わないことなどを明記した規程案を諮り、承認されました。

建築相談室から二十五

二〇一七年の建築相談室

橋本頼幸

毎年五月号の建築人では前年（二〇一七年度）の建築相談室の活動をまとめています。建築相談室では電話相談に加えて、面談相談、現地相談も受け付けております。ここ五年分の変化とともに集計をしたのが図一です。

一七年度の全相談数は過去五年で最も多く、過去十年でも最も多くありました。相談受付が週三回から週五回に変わる前年の二三年度から比べても年間百件以上も相談が増えていることになります。面接相談と現地相談を合計した有料相談の件数は六五件で昨年度六六件とはほぼ同数でした。この件数は電話申し込みの件数で、実施された面接相談は二件、現地相談は四一件でした。

一日の平均相談件数は二・七件であり、月別相談件数は図二の通りです。相談件数が減るのは六月と十二月で、増えるのは五・九・十一・一月でした。また、一日の相談数で最も多いのは八件、五件を超える日は全相談日数二三七日のうち六九日あり、相談のない日は八日ありました。

曜日ごとの集計では、月・水曜日は年平均と同じ、火・金曜日が平均を上回り、木曜日は平均を〇・二下回っていました。

相談者の属性は、建築主（一般）が主ですが、供給側である建築士・設計監理者一〇件／施工者一九件と一六年度に比べ微増しています。

前年度から相談が増えた分野は、「維持管理」は一六年度六六件から八九件に、「インスペクション」が同七件から九件に増えているものの、「空き家」は同五件から二件に減っています。紛争の相手方で設計監理者との紛争が同

一三件から三〇件と大幅に増えていました。

相談対象物件は、全体の六割強が戸建て（所有）でしたが、分譲マンションに関する相談が一六年度の三二件に対して約倍の六一件、土地に関する相談が、同五件から八件に増えています。非所有・非住戸も増えています。

本報告の詳細な内容は大阪府建築士会・建築相談室のホームページでご覧いただけます。

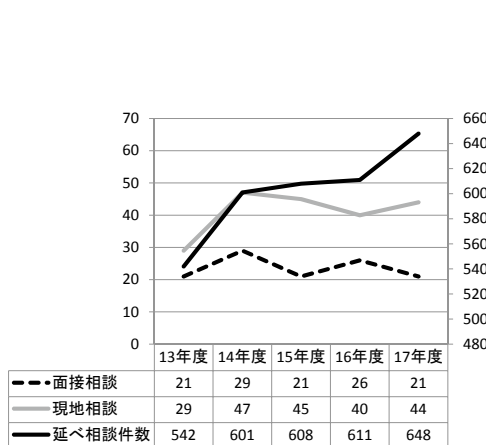


図1 過去5年の相談件数の推移

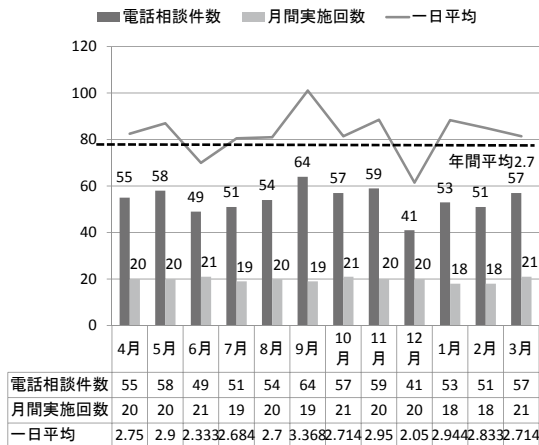


図2 平成29年度の月別相談件数と処理数

編集後記

曾我部千鶴美

いつもより早い桜の便りとともに三月末、建築人賞の二次審査（現地調査）を無事に終えることができました。二月三日に開催された建築人賞応募作品三六点の一次公開審査を経た一般部門四作品、住宅部門四作品の計八作品の現地調査でした。節目となる第十回目は早稲田大学教授古谷誠章審査委員長に審査していただきました。

建築人賞は、本紙のGALLERYに掲載された作品の中から機能性、社会性、デザイン性、先進性などにおいて優れたものを顕彰し、建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的とし、本会会員である建築士の方に、作品発表の機会を設け、「建築人」への作品掲載の意欲をさらに高めていただくことを意図して創設された賞です。対象となる作品は、GALLERYに掲載されたものであれば、立地場所や用途は問いません。

一人でも多くの方にGALLERYに応募していただき、よりよい建築人賞にしていきたいと建築情報委員会一同頑張っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

建築人 5 2018

監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会
編集 建築情報委員会『建築人』編集部
委員長 飯田英二
編集人代表 荒木公樹
編集人 河合哲夫 北 聖志
曾我部千鶴美 橋本頼幸
丸子勇人 牧野隆義
茂龍一之 若江直生
事務局 山本茂樹 母倉政美
印刷 中和印刷紙器株式会社



MONOTON

物 と 、 心 と 。

KITCHEN : K8781JV-DJP-13

MONOTON (モノトン) シリーズは和のテイストをもちつつ
クラシックになり過ぎない、新しい日本のスタイルです
www.san-ei-web.co.jp S A N E I 株式会社

S A N E I

株式会社三栄水栓製作所は 2018 年 4 月 1 日より S A N E I 株式会社 に社名変更いたしました



太陽工業事務所・太陽工業御陵通給油所 竹中工務店

隣接する2敷地にガソリンスタンドと公益財団法人シモノ財団が入る事務所という異なる用途の2つの建物を一体的に計画した。敷地は中百舌鳥古墳群の中に位置する密集住宅街の端部である。地域に根ざしたガソリンスタンドと、学生奨学援助、ものづくり技術に対する顕彰を目的とした財団、双方のイメージを一体的に街に発信するデザインを追及した。

通常異なる構成となる2つの用途を、機能毎の箱型に分解し再配置することでヴォリューム群を構成し、2敷地を分断する防火塙も含め、構造に型枠コンクリートブロック造を用いることで、全体に一体感を持たせつつ、周囲の住宅街にも馴染むスケール感を持った建築群景とした。同様に分散配置された庇は、事務所とスタンドの一体感をつくるだけでなく、仁徳陵から続く桜並木の雰囲気も敷地内へ引き込む役割も果たし、スタンドだけでなく、奥の財団事務所も街へ続く開けた場としている。また、奥まった財団事務所へのアプローチを2階テラスへ持ち上げることで、敷地の間に建つ防火塙に分断されない両敷地の関係を築くとともに、立体的な街路のような空間をつくり出した。

群配置された、建屋はW600×H150×D240の型枠コンクリートブロックによる構造、庇は厚み6、9、12mm3種のスチールプレート格子組による構造、共に群による構造体を用いている。これらの配置計画、構造計画により街に馴染み、地域に寄り添う建築群景を目指した。

撮影：母倉知樹 第37回大阪都市景観建築賞建築サイン・アート賞受賞作品

■プロフィール

興津俊宏（おきつ・としひろ）
1981年 兵庫県生まれ
2004年 広島大学工学部第四類卒業
2006年 広島大学大学院修士課程修了
2006年～ 竹中工務店設計部
現在、大阪本店設計部課長
森田昌宏（もりた・まさひろ）
1963年 奈良県生まれ
1987年 京都大学工学部建築学科卒業
1989年 京都大学大学院修士課程修了
1989年～ 竹中工務店設計部
現在、大阪本店設計部設計第2部門部長、
京都大学非常勤講師

■建物データ

建築主：太陽工業株式会社
設計：株式会社竹中工務店
施工：株式会社竹中工務店
所在地：大阪府堺市堺区三条通2
用途：事務所・給油所
竣工：2016年2月
敷地面積：422.00㎡・718.01㎡
建築面積：229.21㎡・221.71㎡
延床面積：441.62㎡・221.71㎡
構造：鉄筋コンクリート組構造
鉄骨造

